

会員報告 第9班 平成23年5月7日(土)～5月15日(日)

○会社名 株式会社佐藤工務店 (報告会発表文から)

参加した方(2人: ^{とちおふみお} 椽尾二三男 ^{あきやまかつみつ} 秋山勝光 の皆さん)

お手元に簡単な資料を配らせていただきましたので、これに沿って簡単に説明させていただきますと思います。それではよろしく申し上げます。

当社佐藤工務店は2名が宮城県石巻市釜谷地区、北上川の河口付近で活動しました。この9班からポンプ車の操作をする班が一緒に行くことがなくなりまして、当社だけの派遣となりました。

期間は5月8日から5月15日までの1週間でした。

担当は照明車の操作です。

それでは、1ページ目。端折って説明させていただきます。

支援先までの道のりとしまして、当社は弥富市にありますので、ここから下道を通りまして東海北陸道から高速を使いまして新潟経由で仙台宮城インターチェンジで下車しまして、待ち合わせ場所の愛子の防災ステーションに、1日前に出発しましたので、その日の夕方を越えまして夜の8時10分に到着しました。そこで30分ほどですか、中部地方整備局の担当者の方と打ち合わせをしています。その内容は、支援先の位置の確認と、連絡方法、メールアドレスの登録。これによって、作業の完了とか異常の有無をメールで連絡するように指示されました。

当日は防災ステーションの近くで宿を取りまして、次に9班が照明車の担当の当社だけでしたので、前任者からポンプ車の引き継ぎを行ないました。それを終えてから、みちのく公園の方から1時間半ほどかけまして石巻市の北上川下流工事事務所の追波の格納庫で、前任者の中村工業さんと引き継ぎを行なうことになりました。

この間、高速を使っているのですが、高速代については支援緊急車両であるという書面の提示により無料で利用できました。これは行き帰りすべて、このような書類を提出することで無料で利用しています。

小さな写真で見にくいかもしれませんが、右側の下から2段目に私たちが寝泊りをしました、拠点となりました追波の格納庫の入口の写真が載せてあります。これは北上川河口から14キロほど上流の右岸側にある国土交通省の格納庫となっております。

それから、その下に実際に支援活動を行なった北上川の河口付近の写真が載せてあります。

それでは、2ページ目ですが、支援先の位置図。上の方が支援活動をした地区の小さい地図です。その拡大が下にあります。支援活動をした付近には、テレビ報道でもかなり放映されていましたが、70名以上の被災者が出たという大川小学校が通り道にあったということで載せさせていただきました。

それから、3ページに移りますけども、支援活動内容ということで2枚の写真が載せてあ

ります。上の写真は全景を撮ったもので、左側が北上川になります。右側に冠水した土地が載っております。下の写真は、これを逆方向から撮った写真です。河口側から上流側を望んでいます。

4ページに移ります。実際の作業として、午後6時頃に照明車の点灯をしています。2番目が点灯した状況です。私どもは、東北地方整備局さんの方でポンプを運転していましたので、その相番として照明車の運転をしていました。

4ページの下の方の写真ですけども、前の方に1、2と番号がありまして、ここに水中ポンプが付いています。機体自体は履帯式となっております、操作方法は遠隔操作となっております。ポンプ自体は8インチくらいのポンプが2台付いていたと思います。

5ページ目に移りますと、これが夜間の照明を点灯している状況です。その下が、ちょっとわかりにくいんですけども、夜間、蛍光チョッキを着まして懐中電灯を持って、アウトリガー等の点検をしている状況写真です。

その下の写真は、毎日1回、自動車の方ではなく照明の方の発電機の給油をしています。1回約40リッターから50リッター、毎日給油を行ないました。これの記録を用紙に記入して管理をしていました。

この点検自体は、6時に点灯しまして、午後10時、午前2時、4時間おきにパトロールして点検しました。当初は2時間おきにこれをやっていたということをお聞きしました。

推移と、何をやってたかということを中心に簡単に説明させていただきます。18時と書いてある所からの方がわかりやすいかと思っておりますので、ちょっと飛びますけれども説明させていただきます。

6時にアウトリガー等を張りだして照明車のセットを行ないます。それで点灯を行ないまして、このときに愛子の防災ステーションの方に、設置を完了しました、異常ありませんといった報告もしています。

22時に、先ほど言いましたけども、4時間おきのパトロールを行なっています。

上に戻りまして、午前2時。これもまたパトロール、点検をしています。

午前5時になりましたら消灯しまして、照明車の格納をしています。

11時頃、給油の立ち合い。

こういったのが1日の大まかな作業となっております。

私たちが寝泊りしましたのは、6ページになりますけども、活動拠点ということで北上川下流工事事務所追波格納庫。こちらに待機支援車が2台用意されておりました。私たちは高山国道さんの待機支援車を利用させていただきました。ここから近くで宿を取ろうと思わずと約1時間ほど離れた所でないと宿が取れないということで、この待機支援車に泊まらせてもらったことは大変助かりました。

ここから先ほどの支援活動の場所まで25分ほど時間を要します。

待機支援車の内装ですけども、7ページになりますけど、左下に白い四角の箱みたいなのが写っているかと思っております。こちらの方でキーを差し込んでエンジンをかけますと、発動

発電機が外に設置してありまして、それで照明、それからキッチン、いろいろなものが自由に使えるような状況になります。

寝泊りをするベッドですけども、たしか9つくらい用意されていたかと思われます。実際に私たちは寝袋しか使っていないような状況でした。それでも、私たちが行っていた時期には寒いとかそういったことはありませんでした。

それから、これは余談になりますけども、8ページの方で活動周辺の光景ということで、私たちが支援活動を行なった途中に、被災された大川小学校がありました。こちらの方は、2メートルほどですか、バックホーでもう1回土を掘り起こして遺体の確認をされていたということらしいです。実際に2メートル下から遺体が発見されたということも聞いております。

9ページですけども、②として北上川にかかる橋梁です。2スパン分の鋼製の桁が上流側に200メートルほど流されてしまっていて、私たちが行ったときはこの橋は通行止めとなっていました。

それから、大川小学校の近くに被災によって瓦礫等が散乱していたのですが、こちらの方の一角に集積されて、木材に関してはチップ化して減量化して運び出そうという、たぶん試みがされたと思います。そのために専用の機械が3台ほど入っていたと思われます。

それから、一番下ですけども、ほとんど住宅は基礎しか残ってなく、建物は見る影もなくどこかへ行ってしまっている。

それから、河口の方にいろいろな重機があったんですけども、すべて半分くらいまで埋まって使い物にならない状況で放ってあったというようなことがありました。

少し時間がありましたので、女川という所へ行ったときの写真が10ページに付けてあります。女川の位置ですけども、2ページの上の地図の赤丸の1センチくらい下の所に薄く「女川」と書いてあるんですけども、こちらに行ったときの写真を付けておきました。上の写真ですけども、基礎の杭が完全に折れて抜けて横転してしまっている建物。下の写真は、2階部分に残された民家の屋根。あちこちにこういった状況が見られました。

最後に、支援活動を終えて、当初、私もそうですけども、家族も含めてやはり放射線のことを気がかりでした。前任者に話を聞きましたら、それほど気にしなくてもいいよ、という返事をもらいましたので、また、派遣先が原発から少し遠のいたということで安心感を覚え、気軽に行くことができました。安心感の「感」の字が間違っていますので、訂正をお願いします。

先ほども言われたかと思いますが、私どもが支援活動をした期間はコンビニエンスストアとかガソリンスタンド、それから幸いなことに、私どもが活動の拠点としていた所の近くに銭湯もありましたので、そちらの方を利用することができました。先陣を切っていただいた業者さんに比べると楽だったのではないかと思います。

最後に、東日本の日も早い復興を願っております。

どうもありがとうございました。